

第8回 長安ロダム
環境モニタリング委員会

資料-6

工事終了後の 環境モニタリング調査の基本方針 [概要版]

平成30年2月27日

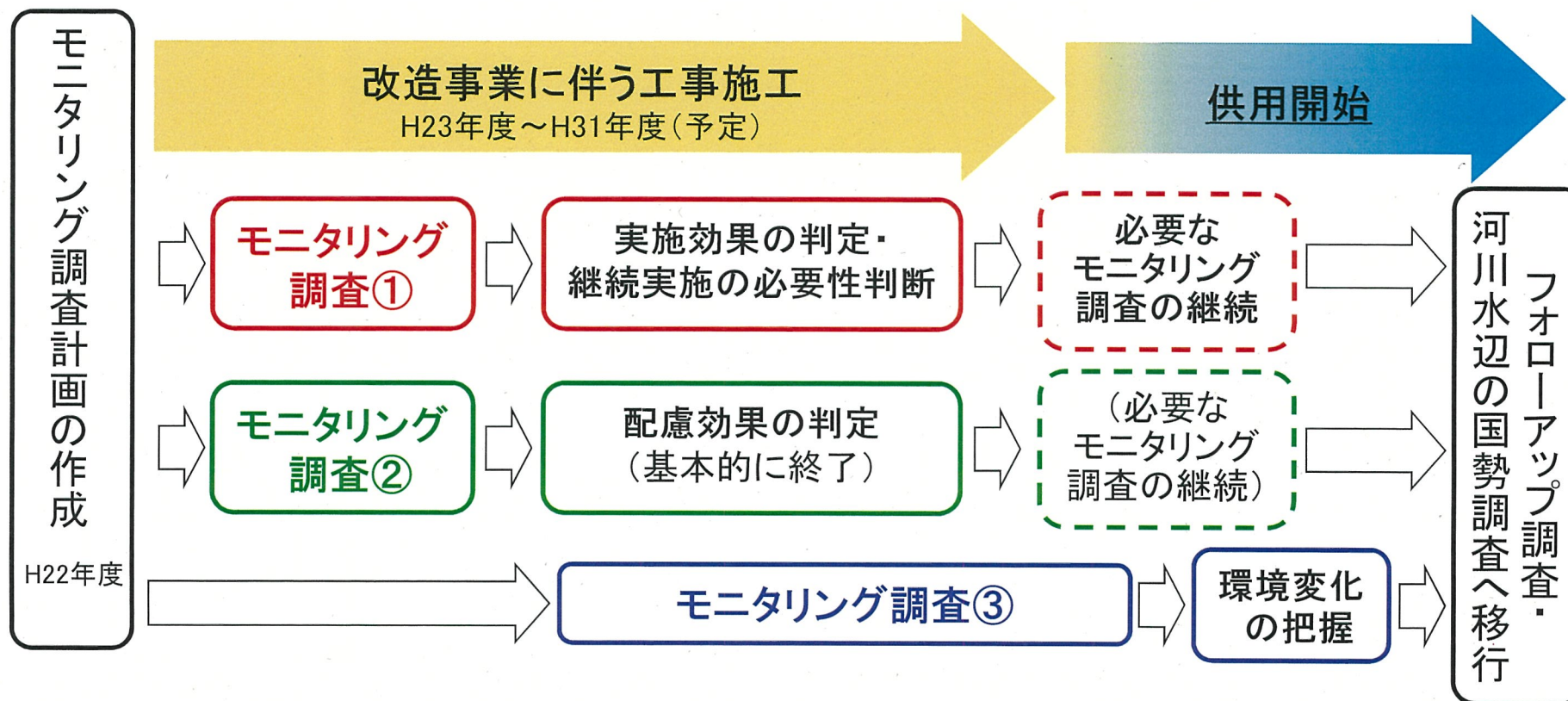
国土交通省四国地方整備局
那賀川河川事務所

1. 工事終了後の環境モニタリング調査 の基本方針

事業の進捗とモニタリング調査位置づけ

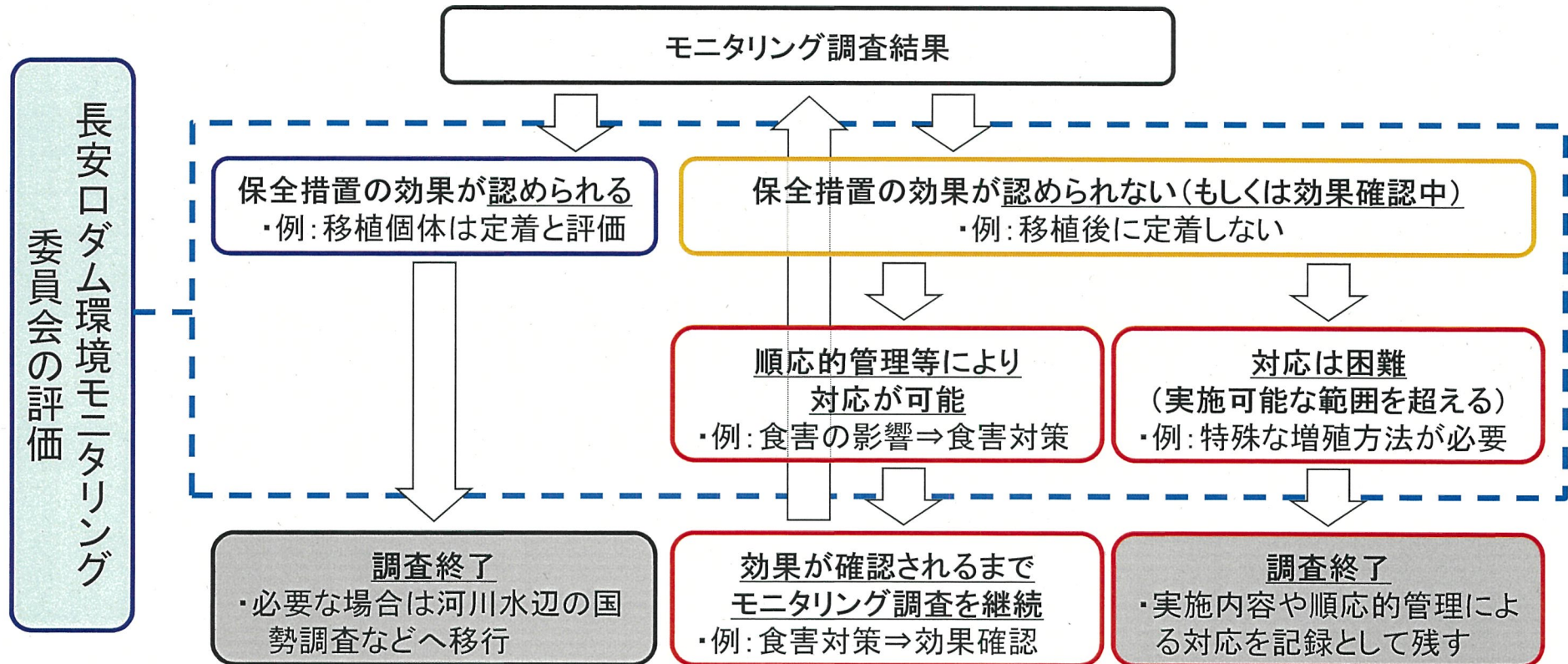
◆モニタリング調査の目的

- ①環境保全措置の効果を把握するための調査
- ②工事中の環境配慮として実施する調査
- ③事業完了後の環境変化を把握するための調査



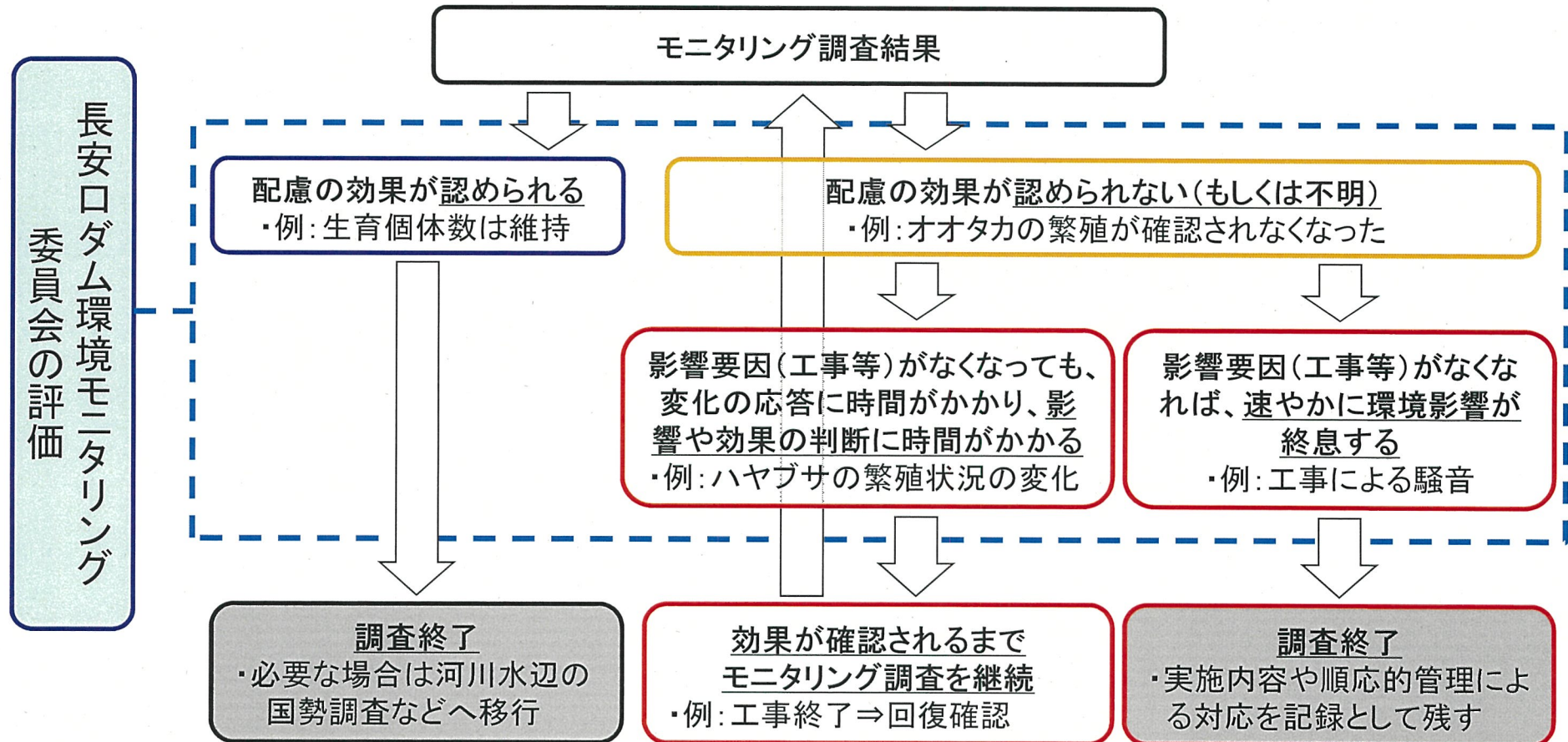
継続の必要性の検討の流れ

調査目的: ①環境保全措置の効果を把握するための調査



継続の必要性の検討の流れ

調査目的: ②工事中の環境配慮として実施する調査



モニタリング調査の継続の方針(案)

環境要素	対象項目	調査目的			継続の必要性の考え方(案)	現段階の案
		①	②	③		
大気環境	騒音、振動		●		配慮の効果が認められ、影響要因もなくなる	今後の工事にあわせて終了
水環境	貯水池、下流河川の水質変化		●		配慮の効果が認められ、影響要因もなくなる	今後の工事にあわせて終了
				●	事業完了後の環境変化の把握が必要	供用開始からモニタリング調査及び評価開始
植物	ナンゴクウラシマソウ	●			保全措置(養生個体の移植)を実施中	個体の移植等の効果が認められる、もしくは、これ以上の対応は困難と判断されるまで調査継続
			●		影響要因の工事は完了(配慮の効果あり)	今年度終了
	ラン科A	●			保全措置(播種・移植)を実施中	個体の移植等の効果が認められる、もしくは、これ以上の対応は困難と判断されるまで調査継続
	ラン科B	●			保全措置(播種・移植)を実施中	
	ラン科C		●		保全措置(移植)を実施中	過去(H28)に終了
	ハルノタムラソウ		●		影響要因の工事は完了(配慮の効果あり)	過去(H28)に終了
ナカガワノギク			●	事業完了後の環境変化の把握が必要	供用開始からモニタリング調査及び評価開始	
動物・生態系	上位性:オオタカ・サシバ・ハヤブサ		●		配慮の効果は不明で、影響要因(工事等)はなくなるが、引き続き変化が想定される	工事終了後2年間程度調査継続
	典型性:下流河川の魚類等			●	事業完了後の環境変化の把握が必要	供用開始からモニタリング調査及び評価開始
				●	影響要因はなくなる(上記と同一調査)	今後の工事にあわせて終了(上記に移行)
	ミゾゴイ		●		影響要因はなくなる	今後の工事にあわせて終了

①環境保全措置の効果を把握するための調査 ②工事中の環境配慮として実施する調査 ③事業完了後の環境変化を把握するための調査